

書評

井上有史, 池田 仁 編集

新 てんかんテキスト

てんかんと向き合うための本

山内俊雄

書名に「新」と付いているのは、1991年に出版された「てんかんテキスト—理解と対処のための100問100答」が、てんかん医療の進歩や読み手のニーズの変化に呼応して内容を改め、装いを新たに上梓されたためである。

昨今、「てんかんと交通事故」あるいは「免許の取得」が話題となっているが、その他にも、てんかんに関する話題が新聞やテレビに取り上げられるようになり、以前ほどは偏見と誤謬に満ちた疾患ではなくなってきたことは喜ばしいことである。

とはいえ、「てんかんという病気は難しく理解ができない」とか、「発作型や薬の使い方が複雑である」「結婚や就労、学校での対応をどのようにしたら良いのか」といった具体的な問題で頭を悩ますことも少なくない。そのようなニーズに応えるために、一般向けのてんかんの解説書も少なからず出版されている。しかし本書の特徴は、「現場でてんかん医療に携わるたくさんの人たちによって作られた本」ということに言い尽くされている。

てんかんは「学際的」な疾患といわれる。精神科だけではなく、小児科、脳外科、神経内科など、それぞれの領域の人たちがかわかって、てんかんの診断や治療が行われるという意味では学際的である。しかし、このような医師を中心とした医療だけでなく、てんかん医療は医師のほかに、看護、心理、薬剤、福祉、療育指導、発達支援、リハビリ、果ては医療福祉相談や医療事務にまで至る多くの領域の支援や協力があってはじめて、適切にてんかん医療・福祉が行いうるという意味では、てんかんは「包括的医療」が求められる疾患ということができよう。

ところで、わが国のてんかん医療福祉の中心的存在である、静岡てんかん・神経医療センターに関係

する現場のスタッフを総動員して本書が編まれたということは、てんかん医療・福祉に必要なとされることがすべて網羅されていることを意味している。しかも、現場で常日頃からてんかん医療・福祉にかかわっている人たちが、何を伝えるべきか、何が求められているかを肌で感じ、それを言葉として伝えているので、どの項目も、適切で、具体的な記述がちりばめられている。

初版が、「100問100答」であったことの流れをくんで、このたびの新版は、それぞれの項目の解説に引き続き、質問されることの多い、あるいは疑問に思われることの多い質問を取り上げ、それに対する回答を随所にはめ込んでおり、そのことがまた、その項の内容の理解を助けている。また、同センターの看護師の方による挿し絵が、全体の雰囲気を和らげている。

本書は、医療関係者だけでなく、てんかんのケアにかかわる人、てんかんのある人とその家族、そしててんかんについて知りたい一般の人にとどまらず、幼稚園や学校などの教育関係施設や、最近多くなってきた高齢者のてんかんの理解と対応のために、お年寄りの施設にも揃えて置くべき1冊であろう。

その意味では、本書を、必要な場所、適切な場所に備えておく、という見識と役割を果たすこともまた、我々精神科医に与えられた責務ではないであろうか？

(埼玉医科大学名誉学長)

●B5 184頁 2012 定価3,150円(本体3,000円+税) 南江堂